

平和な空求め絵本朗読

石川高生5人「宮森小事故伝える」



石川高校の生徒5人が絵本「6月の空」を読み上げた朗読会＝9日、浦添市前田のブックカフェ

浦添市前田のブックカフェ「ブックキッシュ」で9日、沖縄の基地問題をテーマにした本の朗読会があり、県立石川高校の生徒5人が宮森小米軍ジェット機墜落事故を物語にした絵本「6月

の空」を朗読した。53年前の事故の記憶を、垂直離着陸輸送機MV22オスプレイ配備が取り沙汰される沖縄の今と重ねながら、安全で平和な空を希求した。絵本「6月の空」は、主人

公の琉くんが夢の中で1959年6月30日の宮森小に迷い込み、ジェット機が墜落し、炎上する現場に遭遇する物語。夢から覚めた琉くんは、祖父母が墜落事故で子どもを失っていた体験を知らされる。

遺族の聞き取りを基に作成された物語。5人は初めての舞台に緊張した様子もあつたが、朗読が始まると感情を込めて丁寧に読み上げた。事故から50年を経ても癒えない悲しみが聴衆の間にじわじわと広がった。

朗読を終えた仲里美咲さん(3年)は「宮森の事故から50年以上がたつが基地は今もあり続ける。ジェット機がいつ自分の所に落ちるか不安だ」と話した。宮森小出身の佐久本祥寛君は「家族から聞いてきた話もあり事故のことを多くの人に伝えたいという思いを出し切れた」と胸を張った。

(2012年6月10日 28面)

☆絵本「6月の空」はどんな物語でしょうか？ 何が基になっているのかな？

☆子どもの犠牲者が出たジェット機墜落事故を通して何を伝えたいのか、読み取ってみよう。

年 組 名前